

全国的青年連絡組織 第11回通常総会 議事要録

日時：2021年2月27日(土)11:00～11:30

場所：ZOOM開催

■総会成立宣言

本総会の出席状況：

正会員 554名のうち、

正会員の出席者 24名

電磁的方法によって表決済みの者 39名

欠席の議長委任 89名

→よって、本会規約第12条4項の総会設立要件を満たし、有効に成立。

■議長の指名

朝井理沙子（渋谷ユネスコ協会） →承認

■議事進行の確認

議事録 井上葵（柏ユネスコ協会） →承認

議事録署名人 城戸譲（杉並ユネスコ協会） →承認

■議事録作成のため、Zoom画面を録画することを承諾

【議案】

第一号議案 日本ユネスコ協会連盟評議員候補の承認

■近畿ブロックでは立候補者が2名出たため、ブロック内で事前に選挙を行った。

得票数

谷内 裕也（奈良ユネスコ協会） 17票

パッティ ダルマ ラズ（神戸ユネスコ協会） 19票

結果、パッティ ダルマ ラズ氏を近畿ブロックの候補者とした。

■その他のブロックは立候補者が1名のため投票は行わず、本総会で承認をもって、日本ユネスコ協会連盟青年評議員候補として推挙する。

北海道：佐々木 将人（札幌ユネスコ協会） 本日欠席

東北：中谷 祐太（仙台ユネスコ協会）

関東：吉田 理沙子（渋谷ユネスコ協会）

中部東：名取 亮介（長野ユネスコ協会）

中部西：今中 麻美（名古屋ユネスコ協会）

近畿：パッティ ダルマ ラズ（神戸ユネスコ協会）

中国：香川 生織（岡山ユネスコ協会）

四国：立野 雄二郎（室蘭ユネスコ協会） 本日欠席

九州：野田 祐希（熊本ユネスコ協会）

→以上9名承認

■日本ユネスコ協会連盟理事候補の互選について

青年理事候補は総会で決定した評議員候補の中から選出するものであるが、本日は候補者の内、2名が欠席のため、後日評議員候補の中で話し合っ決めて決めることとした。

結果については後日全青連のホームページ上にて報告する。

第二号議案 全国的青年連絡組織役員承認

■事前に案内した規約の間違いに関する訂正

規約第8条「役員定員について」

訂正前：会長1名、副会長1名以上3名以下、監事2名以上

訂正後：会長1名、副会長1名以上3名以下、監事2名

■立候補者 6名

→承認

■役職の協議について

通常は総会で承認後その場で役職について協議を行うが今回は総会がWEB開催であることを踏まえ、選挙管理委員立ち合いのもと事前に候補者で話し合いを行った。

・役職の協議結果

会長

名取 亮介 (長野ユネスコ協会)

副会長

三浦 晴信 (仙台ユネスコ協会)

西脇 航斗 (大阪ユネスコ協会)

小田 晋太郎 (延岡ユネスコ協会)

監事

入江 陸太郎 (目黒ユネスコ協会)

タバ・セカル (神戸ユネスコ協会)

第三号議案 2020年度事業報告・2020年度会計中間報告

※別紙総会資料参照

→議案通り承認

第四号議案 2021年度事業計画案・2021年度予算案

※別紙総会資料参照

→議案通り承認

第五号議案 青年声明

※別紙総会資料参照

補足説明：日本ユネスコ協会連盟の評議員会等で示された2021年度の日ユ協会連の事業計画案を見ると、青年に関する事業が年々減少しており、2021年度も少ない。

今後さらに青年に対する教育の場や青年事業がなくなることが考えられるため、青年育成に関する事業を考える場を作って欲しいと言う意見を青年声明としてあげることとした。

→議案通り承認

その他

・入江 陸太郎（目黒ユネスコ協会）

総会資料の第二号議案全国的青年連絡組織役員名の中の入江陸太郎の所属が「仙台ユネスコ協会」となっているが、今回、目黒ユネスコ協会の会長の承認を得て立候補しているため、所属は「目黒ユネスコ協会」である。

・名取 亮介（長野ユネスコ協会）

全国的青年連絡組織 新会長による所信表明、これからの全青連について
参考（画面共有）：全国的青年連絡組織 HP 所信表明 第1代会長松浦慎

[全国的青年連絡組織 \(youth-unesco.net\)](http://youth-unesco.net)

「2002年以降の青年活動は小さなグループが点在しているに過ぎず、大きなネットワークを活かした運動にまで発展できずにいた。全国的青年連絡組織ができることで全国のネットワークが強化されることを望む。情報交換や新たな青年を地域で発見することを手助けしていきたい。」こういった目的で、当時全国的青年連絡組織が設立され、今までやってきた経緯がある。ここに書いてあることが今も変わらず、目指しているところではないかと思う。

改めて、コロナの関係で今回全く新しい形の総会として ZOOM で開催とした訳ですが、コロナもこれからどうなるかわからない中で、これからユネスコの青年活動がそれぞれ地域の中でどうやって展開していくのか、さらにそれをつないでいく役割はどんな形が必要なのかということ踏まえて、これからの時代に即した形で青年活動をピックアップしたり、つなげていったりということを考えていく。

それぞれに仕事、生活があり、ユネスコもやっていて、自分の所属協会もあって、さらに全国の活動もこの全青連の中でやっている訳なので、持続可能な形でどうやってやっていけば最大限みんなのやる気やモチベーションアップさせながら、さらにつながりを増やしていけるかということを追求して、全国的青年組織のあり方も今まで通りでいいのか、何か変えていくところがあるのかということも含めて考えていきたいと思う。

皆さんのご意見やアイデアがあればどしどしあげていただければありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

・鈴木 郁香（柏ユネスコ協会）

現在、日本ユネスコ協会連盟の理事をしている関係で、来年度の青少年ユネスコ活動助成の方向性を決める会議のメンバーになっている。もし、現行の青少年ユネスコ活動助成に使いづらい点や要望があれば教えて欲しい。

※議事要録掲載時には受付終了。

2021年2月27日 以上の議事要録について相違ありません 議事録署名人 城戸譲